

平成28年度第10回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 平成29年3月28日（火） 10時30分から12時まで
- 場 所： 京都市立病院 5階会議室
- 出席者： 理事長 森本 泰介
理 事 森 一樹, 黒田 啓史, 桑原 安江, 大森 憲, 位高 光司, 山本 壯太,
能見 伸八郎, 木村 晴恵
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則
事務局 阿部経営企画局次長, 長谷川事務局担当部長, 高橋経営企画課長,
竹内職員担当課長, 澤井管理担当課長, 北川京北病院事務長

1 開会

2 報告等

(1) 理事長から平成29年度へ向けた所信

平成29年度は、第2期中期計画3年目であり、第2期中期計画達成に向けて重要な年度と言える。また、平成30年度には大幅な医療費削減を掲げた診療報酬と介護報酬の同時改定が控えており、加えて本年度策定されました京都府地域包括ケア構想に基づく関係機関との調整にも対応していかねばならない。

こうした中で、平成29年度の前算と年度計画策定に際して、次の5点を重要課題とした。

まず、1点目は、「機構の安定的な運営」。安定した経営基盤を確立するための必要な取組を着実に進めていく。一つには、収益の増加に伴って支出も増加する収益構造を改善するため、いわゆる手技収益の改善を中心に収益力の向上を図る。また、現在既に次期報酬改定を想定した様々な検討を進めているところだが、京都市立病院の高度な急性期の医療体制を堅持しつつ国の進める地域包括ケアシステムの構築に貢献するための検討を進めていく。

2点目は、「京北病院の収支改善」。先月2月1日から、地域包括ケア病床を開始し、収益の増加を確保することができた。更に収益の向上に向け、京都市立病院との一体的運営を進めるとともに、地域の新たな患者掘り起しのため、周辺の医療機関等と密接に連携する体制を構築するなど思い切った方策を講じていく。

3点目は、「京北病院の将来構想をはじめとした、第3期中期計画への取組」。京北病院の老朽化に伴い、地域や行政のニーズをしっかりと把握した将来構想を策定することや2025年を目前にした経営方針を検討するなど、第3期中期計画の策定の準備に取りかかる。

4点目は、「PFI事業の進捗」。平成21年度に締結した18年間のPFI事業契約が折り返しの時期を迎え、整備事業が完了し運営事業を中心として進めるなかで、病院運営環境の変化に即応した最も効果的なPFI事業とするための取組を進める。他病院が抱える課題も視野に、PFI事業の「完成型」を作り上げたい。

最後の5点目は「働き方改革」。国における議論に注目しているところだ。採用計画も含めて5年間かけて的確に検討して行かなければならない。また、テレワークやフレックス時間制など、多様な働き方についての議論も進めて行かなければならない。

(2) 平成29年度年度計画（案）及び予算（案）について

資料1-1から1-4に基づき阿部経営企画局次長から説明

いずれも原案のとおり、承認された。

- 病院運営において、大切なのは人であると思う。今年度医師が充実したとのことだが、どの診療科で増えているのか。救急に影響する脳神経外科はどうか。
 - 手術数を増やすことを目的に、麻酔科を大きく増やしている。医局の事情によるが、選択と集中の考えで投資していきたい。脳神経外科は現時点で増えていないが、引き続き要望している。
- 教育研修センターの設置とあるが、どのようなものか。
 - 今まで各部署で行っていた研修を、体系化し、計画的な人材育成を強化していくための体制を構築中である。
- 人材育成について、職員の質を上げていくためには、勤務時間中の研修等、学びやすい時間設定も必要だと思うので、勤務環境とのバランスも考慮して、余裕を持った計画を作っていただきたい。
 - できるだけ負担を減らすために、時間内の研修を進めている。また、総合情報システムを使ったeラーニングについても今後進めていきたい。
 - 看護部の取組としては、特に3年目までの看護師に対しての必須のプログラムを設けているほか、専門プログラムも受けられるようにしており、学生の間でも市立病院の研修が充実していることは広まりつつある。
- 働き方改革は、多職種が集まる病院で非常に難しいと思うが、何か方向性はあるのか。特に医師では難しいところがあると思うが。
 - 超過勤務の縮減が医師についての大きな課題である。コメディカルや医師事務作業補助者を活用する、機器を導入する、などが考えられる。
- PFI事業に関して、折り返し地点とのことだが、具体的に課題などがあるのか。
 - PFI事業では、医事や給食、清掃など多くの業務を包括的に委託しているが、病院職員とSPCの業務区分が明確になっておらず、人を二重にかけているところもあり、期待していた効果が得られていない部門もある。
- PFI事業は、うまくいっているところは少ないのではないかと。プロジェクトチームを作って調べてはどうか。また、契約内容や運營業務の見直しとあるが、契約上、見直しは難しいのではないかと。
 - モニタリング委員会で日々の業務について、検証・評価を行っている。見直しは、モニタリング委員会の検証・評価結果がもとになる。なお、モニタリングの結果、金銭的なペナルティも設けているが、ペナルティはSPCではなく、協力企業が負うものになっている。マネジメントするSPCがペナルティを負っていないことが大きな問題である。
- モニタリング委員会で検証した内容については、理事会で報告してもらいたい。また、年に何回かはSPC社長に理事会に来ていただき、マネジメントについて報告いただきたい。
 - 例えば、理事会でPFI事業のチェックを行う方法もあるのではないかと考えている。また、おっしゃられたようにPFI事業に精通した方に入っていただき、効果的なチェックができる方法を考えたい。
- 他の病院では、PFI事業によりかえって、業務が回らなくなった事例を聞いたこともある。京都市民の貴重な税金が最適に活用されるよう検討されたい。
- がんへの取組について、29年度目標数値が27年度実績から大幅に伸びているが、無理な目標となっていないか。28年度の進捗具合はどうか。
- 京北病院の数値目標等も、伸びが非常に大きいですが、達成に向けてどう取り組んでいるか。
 - 例えば、がんに係る化学療法件数の28年度実績については、外来化学療法センターの増

床等の効果もあり、12月末時点で27年度実績に肉薄するなど、順調に増加している。京北病院の訪問診療等の目標数値についても、医師体制の充実や市立病院との人事交流の効果が表れ、今年度既に達成しており、無理な数値ではない。

- 京都府立医科大学の事件がニュースをにぎわせている。医師の派遣等で市立病院は大学との連携があると思うが、どの大学かと特別な関係はあるか。
 - 当院は、京大、府立医科大、滋賀医大から派遣いただいている。基本的には、各診療科設立時の派遣元の大学から医局人事によって派遣されるので、各派遣先の病院との関係・連携は大切である。
- 高額機器の更新について説明があったが、低侵襲等の先端医療機器の導入状況についてはいかがか。
 - 低侵襲手術に努めており、京大の64の関連病院の中で、当院の腹腔鏡手術の割合はトップクラスである。ダヴィンチもあり、手術機器は揃っている。
- 外国人患者が安心して受診できる設備・体制の強化は、具体的にどのようなことを想定しているか。
 - 現在、薬袋の説明書の英・中・韓対応や、また、常駐ではないが、医療通訳者も予約により対応している。これらの取組を充実させていきたい。
 - 京都多文化共生センターと協力して、医療通訳の養成事業を行っており、当院で実習等も行っている。
- 30年度の診療報酬改定に向けて、具体的な話はまだだと思うが、何か取り組まれているのか。
 - 急性期で高度な症例数をやっていくために、病床の再編成を検討することも考えている。

(3) 経営状況月次（2月分）報告について

資料2に基づき阿部次長から説明

- 高額医薬品の影響のほか、診療報酬単価の増加は、何に因るものか。
 - 外来の診療報酬単価の増加は、主に高額医薬品の影響によるものである。入院診療報酬単価の増加の主な要因は、単価の高い手術を行ったことである。

(4) 月次収支（1月まで）について

資料3に基づき阿部経営企画局次長から説明

- 2・3月の経営数値で市立病院が京北病院の赤字をカバーできるかですね。
 - ご説明したとおり、微妙なところである。
 - 京北病院の2月の入院収益は上がっており、2・3月の赤字を縮小させたい。

(5) その他

- メディア掲載履歴について、朝日新聞の「どうしました」で小児科の症例が取り上げられているが、他診療科についても取り上げられるよう頑張ってもらいたい。

3 閉会